

令和5年度

寄宿舎

『キラリ&ホット』通信

『友達と共に高め合い自立できる生徒』



2024.2.29 2月号 文責：寮務主任 揚張

今年度も残すところあと少しとなりました。寄宿舎でも、卒業を前にした舎生達を中心にした、いろいろな思いが混ざり合っています。生活を共にしている時間が“強く・濃く・長い”、そんな寄宿舎だからこそその時間が過ぎていると感じます。舎生達の気持ちと、それを支える寄宿舎指導員たちの姿が感じてもらえると嬉しいです。

《舎監日誌より》

高校生6名で楽しく過ごしている印象でした。研修室に集まり、深〜い話をして時間が経つのが早く感じました。また地震避難訓練があり、真剣に取り組む姿を見ることもできました。やはり上級生が頼もしく見えますね。この先輩の姿が、後輩に受け継がれて文化になっていくのかなと思います。楽しい舎監でした。



学習の時間に、3年生の舎生から進路講演会の資料を見せてもらいました。以前、彼の担任をしていたので、二人で思い出話のようにもなり寂しくもなりました。3年生になってからの進路学習については詳しく聞いていなかったの、進路決定に至るまでに挫折や悩みがあったことを初めて知りました。そんな中で、彼の課題意識と実習の評価とのズレがあると感じ、話をしました。このタイミングで話すべきではなかったかとも思いましたが、少しでも今回の話が残ってくれればと思います。

毎回舎監に行くと歓迎してくれる仲良し3人組！Mさんとお風呂に入ったり、RさんSさんとゲームをしたりと、初めてのことも多く楽しい時間を過ごしました。学習時には進路講演会の練習に取り組み、1年生からの自身の進路に対する姿勢や経験を、冷静に振り返っていることが分かりました。また、感じていた悩みや葛藤についても、建前から本音まで話してくれて、3年間でいろいろなことを考え、吸収してきたことが分かり、その成長に胸が熱くなりました。

将来



高等部の舎生の進路講演会の準備や、ドリル学習など、学習の時間に一生懸命取り組む姿にとっても感心しました。また、体験入舎の小学生に対して、好きなことや趣味を聞いて、一緒に話をする様子が見られました。異年齢の集団生活の良さだと改めて思い、先輩たちの成長した姿が見られてうれしかったです。